

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、(1) アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、(2) COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、(3) アイデアの実現フェーズに移行するには(1)の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

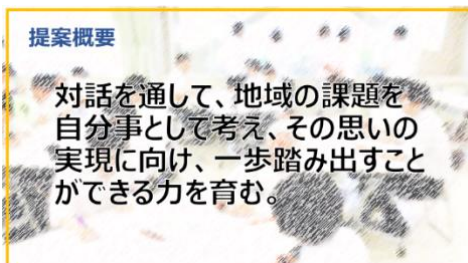
これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

対話により行動を起こす力をつける地域リーダー育成プロジェクト

(応募チーム：CLIP)

(特徴)

牧之原市が育ててきた市民参加と協働の取組を支える市民ファシリテーターを軸にして、地元の高校生を対象に「地域リーダー」を育成しようというプロジェクトで、このプロジェクトを行いつつ長期的な狙いは高校生たちの地元定着率をあげることに特徴がある。



提案概要

対話を通して、地域の課題を自分事として考え、その思いの実現に向け、一歩踏み出すことができる力を育む。

PROJECT1	外国人と高校生の交流の場を設ける
PROJECT2	学生と地域のつながりを深める
PROJECT3	地域のママのお手伝いをする
PROJECT4	地域医療について理解を深めてもらうような医療講演をする

(アドバイス)

(1) 「対話を学ぶ授業」から実現性の可能性の高い「プロジェクトの実施」の授業への展開

これまでの対話を学ぶ授業から出てきた15のプロジェクトのうち実現性が高い上記の4つのプロジェクトについて、今年度はこれらを実施していくフェーズになるわけです。ここでは特にCOGでも推奨しているデ

ザイン思考を取り入れて、プロジェクトの対象となる人々の心と行動に共感しながらどのような具体的な活動がそれぞれのニーズにマッチしているかをよく探って欲しいと思います。このことでこれから必要な相手への共感力を磨けると思います。

(2) プロジェクトの実施段階における構成力とデータ活用

上記のプロジェクト実施に当たってもう一つ必要な能力は、実施計画の構成力です。具体的な実施についての計画づくりを最初にするのですが、その段階でもその計画の妥当性をチェックするためにデータを駆使する必要が出てきます。それぞれどのようなデータが必要か洗い出して、そのデータを見ながらより効果的な各プロジェクトの内容を検討していかれるとよいと思います。

(3) 高校生が地元に着する（将来の U-ターンを含む）ための条件をテーマに地域リーダー育成プロジェクトの仕組みの活用を図る

以上の 4 つにはないのですが、せっかくですから、高校生が地元に着する（将来の U-ターンを含む）ための条件は何かを高校生が上に書いたデザイン思考でしっかり整理してみることも有益だと思われます。

(4) 参加ファシリテーターへの期待

地元の参加ファシリテーターの経歴は多彩ですが、その経験を踏まえて、対話型とデザイン思考、データ分析の手法を取り入れて、関連する施策について、今後アイデアを考案されることも検討されてはどうかと思います。